

令和6年度 能代市教育連携の取組

1 教育連携の目的

教員研修や両区市の子どもの体験・交流を推進し、相互の教育の質の向上を目指す。

2 教員派遣後の取組について

(1) 校内への還元

派遣研修に参加した教員が学んだことをもとに、校内で模範授業を行った。指導主事が授業を視察し指導・助言を行った。



成果	課題
・めあてとまとめを一体とする授業を意識している。 ・学校全体で「としまっ子の学び vol.1」(資料1)を生かした授業改善を推進している。 ・派遣教員が中心となって、若手教員に OJT 研修を行う等、教員同士で授業改善を進めている。 ・ICT を効果的に活用し、子どもの考えを可視化しながら授業を展開することができている。	・教師が一方的にしゃべり続ける授業が見られた。 ・授業力に差がある。 ・授業力の向上に向けて、教員が具体的に何をすべきが理解できていない様子が見られる。 ↓ ・授業力向上に向けた共通理解と教員一人一人に合わせた指導が必要 ・授業力を高めるためには、教員が見通しをもって授業改善することが必要

(2) 指導資料について

- ・研修に参加した教員の報告書や、指導主事の授業視察をもとに、授業改善のポイントとして活用できる資料「としまっ子の学び vol.2」(資料2)を作成した。
- ・作成した資料を令和7年度の指導課訪問や年次研修等で活用し、授業改善を推進する。

3 能代市とのオンライン交流 (Friend School) について

(1) 目的

タブレットを活用して、教員同士、児童生徒同士が交流することで、教員の授業力や対応力、児童生徒の資質能力の向上を図る。

(2) 交流の内容 (小学校7校、中学校4校で実施)

- ・演奏家を招いて講演会を開く際にオンラインを繋いで鑑賞をした。
- ・子どもが学習したことを発表し合った。
- ・指導案を送付し合い、授業検討を行った。
- ・能代市の授業観察をし、校内の授業改善を図った。

としまっ子の学び Vol.1

めあて/課題の設定

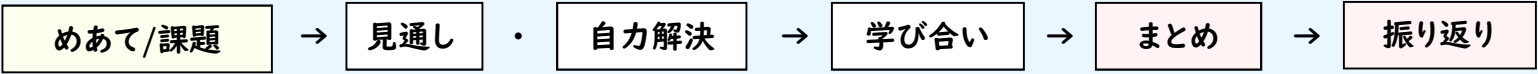
まとめと振り返りの実施

教師主導型からの脱却



教師主導型からの脱却
～子ども主体の授業～

<1単位時間の授業の流れ>



めあて/課題の設定 ～身に付けさせたい力を明確にした授業～

めあて/課題

- めあて/課題を意識させる。
- 子どもから引き出す。
- 子どもの言葉から設定する。
- めあて/課題が自分事となるようにさせる。

そのために
→

子どもの関心を高めたり、
必要感をもたせたりする
ような導入を行う。

めあて	本時において何ができるようになったらよいのかをはっきりさせるもの
課題	課題解決型の授業（主に算数・数学、理科、社会）で、本時において解決すべきもの

まとめと振り返りの実施

～何が身に付いたのかが分かる授業～

まとめ

- 子どもの言葉でまとめる。
- 黒板に記した子どもの考えやキーワードから、まとめにつなげる。
- めあて/課題とまとめは、文の書き出しを同一にすると、正対していることが分かりやすい。

振り返り

- 振り返りは授業の感想ではない
- 振り返りの視点をもつ。
- 本時のねらいに応じて、視点は子どもに選ばせたり、教師が指定したりする。
- 振り返りの内容をもとに、次時への意欲付けを行う。

見通し

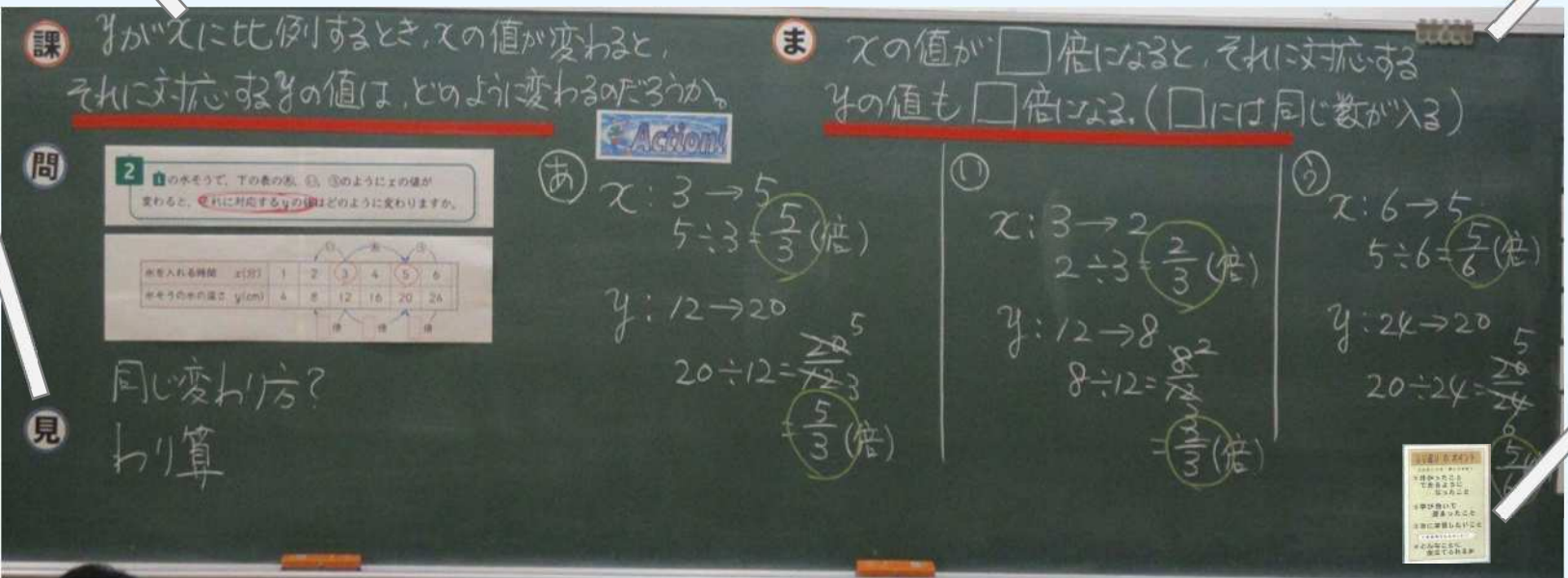
- 既習事項を確認する。
- 解決の方法のヒントを与える。

自力解決

- 十分な時間を確保する。
- 全員に自分の考えをもたせられるようにする。



<学習隊形：前向き（集中する時）>



板書の
仕方

- 1単位時間の学習の流れが分かるように記す。
- 子どもの考えや本時の学習のキーワードを記す。
- めあて/課題とまとめを横並びにし、正対していることを視覚的に分かりやすく記す。

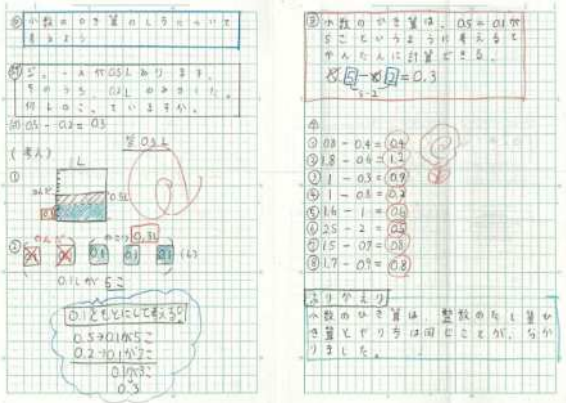
学び合い



<学習隊形：コの字型（話し合いの時）>

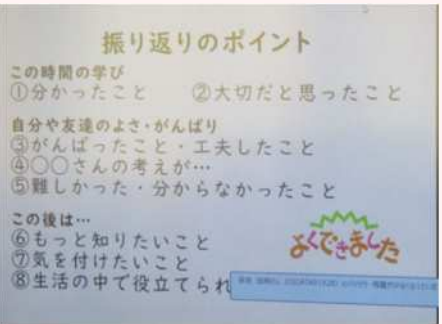


- 子どもの発言の復唱や説明をしない。
- 発言者以外の子どもに説明・補足させる。
- 子どもの発言をつなぐ。
- 教師がエラーモデルとなり、考えを深めさせる。
- ICTを活用し、互いの考えを視覚的に示す。



ノート
の
使い方

- 見開きで使用する。
- めあて/課題とまとめが横並びになるようにする。



としまっ子の学び Vol.2

項目 段階	めあて	まとめ	ふりかえり	教師主導型の脱却
1	子どもに示す	子どもに示す	視点を示す	個人や集団での活動時間を確保する
2	学習活動を明確にする	めあてに正対してまとめる	ふりかえりの視点を選ばせる	子どもの発言をつなげたり広げたりする
3	興味関心を高める導入を行う	まとめにつながるキーワードを子どもから引き出す	視点にあったふりかえりをさせる	めあてにつながる活動を子どもに選択させる
4	正対したまとめが見通せるように示す	キーワードをもとに子どもといっしょにまとめる	ふりかえりをもとに次時につなげる	めあての設定やまとめ等を子どもにさせる
5	子どもとの対話から設定する	身に付いた力が分かるように自分の言葉でまとめさせる		

<1 単位時間の授業の流れ>

※時間通りに始め、時間通りに終わる

めあて/課題

→

見通し

・

自力解決

→

学び合い

→

まとめ

→

ふりかえり

子どもとの対話から設定する

自分の言葉でまとめさせる

次時につなげる